

## 感染症情報

## ダニが運ぶ感染症に注意

## どんな病気？

ダニに咬まれることによって感染するダニ媒介感染症には、「つつが虫病」「日本紅斑熱」「ライム病」「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「ダニ媒介脳炎」などがあります。ダニによる感染症の多くは、咬まれたあと数日から数週間以内に発熱や頭痛、関節痛、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）では、意識障害や出血症状が現れ重症化する場合があります、日本での致死率は25～30%といわれています。

※ここでの「ダニ」には、屋内で生息するコナダニ類、チリダニ類などは含みません。

## どうやってうつるの？

ダニに咬まれることによって感染しますが、すべてのダニが病原体を持っているわけではありません。

ダニは日本全国に分布しています。特に野生動物が生息する自然環境が豊かな場所に多く生息しますが、市街地周辺でも自然が豊かであれば、畑やあぜ道などにも生息していることがあります。

## どうやって防ぐの？

ダニは人間以外にも野生動物やイヌ、ネコも吸血します。山林などに多く生息し、庭や畑、あぜ道などにもいますので、農作業やハイキングなどで山林に入る場合は、ダニに咬まれないように長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を控えましょう。また、服にダニが付いた場合に確認しやすいよう明るい色の服を着るようにしましょう。

明るい色の服を着る  
(服にダニが付いた場合  
確認しやすいため)

首にはタオルを巻くかハイ  
ネックのものを着用する

長袖を着用し、袖口は  
手袋の中へ  
シャツの裾はズボンの  
中へ

ズボンの裾は長靴の中へ  
シューズの場合はズボンの  
裾に靴下をかぶせる



## マダニに咬まれたら？

マダニに咬まれたときに、虫体を無理に取り除こうとすると、病原体が体内に入ったり、皮膚の中に虫の一部分が残ることがあります。無理に自分で取り除こうとせず、医療機関を受診しましょう。

また、マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱などの症状がみられた場合も医療機関を受診しましょう。



皮膚

無理に自分で虫体を取り除かず、医療機関の受診を！！